

FESがこだわる木材について

昔から使われている言葉で『適材適所』という四字熟語があります。伝統的な日本家屋の建築現場での木材の使い分けが語源であるといわれています。FESもこの言葉のように、それぞれの木材の特徴を活かして使用しています。さらに建物の工法や構造金物についても、こだわりを持つことで高い耐久性と耐震性を確保できます。丈夫な建物を造るために、材料選びはとても重要なことなのです。



・ベイヒバ十台

現在、大手ハウスメーカーやパワービルダーが使用している土台の中で最も多いのが人工的に薬剤処理された米樺（ベイツガ）と呼ばれる、北米から輸入された材料といわれています。軽軟で加工しやすいというメリットがありますが、水湿には弱いといわれています。FESが使用するベイヒバは優れた耐久性、耐朽性をもった木材であり、シロアリやカビ・ダニを寄せません。

防腐・防蟻処理も全く必要が無いといわれています。土台として**最も適した**材料です。



・柱

住宅の柱材の中で杉に次いで数多く使用されている集成材。FESでは外側が軽くて強く、弾力性・耐久性・抗菌性・耐犠牲のある杉材と内側は強くたわみにくく、圧縮性・引張性が高い米松材のそれぞれの特徴を組み合わせたJAS認定構造用異種集成材（ハイブリッド柱）を使用しています。



・床梁

FESの床梁はエンジニアウッド（構造用集成材）を使用しています。エンジニアウッドとは木材を様々な方法で加工し乾燥させた後、接着成型した材料で強度が保証されています。JAS（日本農林規格）認定工場管理製造されているので、品質のバラツキもありません。一般木材では不可能な強度、性能、寸法、形状のものをつくることのできる材料なため、大規模な構築物にも数多く使用されている構造材です。



・小屋組み、母屋、その他

FESの構造材・その他、建物の仕上りに関係する部分にはすべて、**乾燥材**を使用しています。多くの水分が含まれる木材はしっかりと乾燥させて使用することが、建物の耐久性や美しい仕上がりへと結びつきます。住宅が完成してしまいますと直接見ることが出来ない部分ではありますが、こだわりをもって使用しています。



・LVL（積層材）

天井の下地材として使われる野縁材です。構造材以外の部分にもエンジニアウッドや乾燥材を使用。仕上りの精度を向上させる為に常に様々な材料の研究をしています。

・FESの構造材（プレカット）



FESの構造材はすべてCAD設計されたデータをもとにコンピューター制御で1本ずつ、加工いたします。手加工による品質のばらつきも無く精度も高い仕上がりとなります。また現場での作業が少なくなる為、工期の短縮や産業廃棄物の削減にもつながります。

FESが選び抜いた木材は優れた技術によって加工され、各現場へと届けられるのです。

